

挑戦

令和7年10月15日（水）
流山市立おおぐろの森中学校
第一学年 学年通信
文責 桑

走り、踊り、声を合わせて

季節は秋へと移り変わり、過ごしやすい日が多くなってきました。体育祭練習期間中はグラウンドや体育館のあちらこちらで生徒たちの応援の声や揃ったダンスの足踏みが聞こえ、日に日に成長していく姿が見られました。こうした練習の計画や運営は、体育祭実行委員を中心に生徒たち自身で行っていました。どの時間にどの種目を練習するかを話し合い、効率よく取り組めるように工夫する姿には、1年生とは思えないほどの自律が表れていました。「任されているからこそ頑張ろう」という気持ちが子どもたちの中に芽生え、行事を通して確かな成長につながっていることを感じます。

学年種目である「竹取合戦」では、大きな竹の棒を仲間と息を合わせて運び、回る方向を声に出しながら練習を重ねていました。最初はなかなか上手く回れずに手が離れてしまう場面もありましたが、各クラスで作戦を練ったり、声を掛け合ったりするうちに少しづつ動きが揃うようになりました。本番もチームを一生懸命に応援する生徒たちの顔が輝いていました！



全学年共通の「レク走」では縄跳びをした後、ボックスからボールを取り出し、ボールの色によって麻袋や網、段ボールキャタピラーを使ってゴールを目指す内容です。苦手な動きに苦戦する生徒もいれば、得意なことでスピードを見せる生徒もあり、それぞれが自分らしさを出せる競技となりました。2、3年生のチームの走る姿を声を枯らして応援する様子からは、クラスや色の一体感が伝わってきました。



徒競走はレク走出場者以外の生徒が参加しました。1着でゴールし、喜ぶ姿もあれば、目指していた順位を逃がし、悔しそうにする姿もありました。いずれも一歩前へ成長する大切な経験となったと思います。



競技だけでなく、各組のダンスや応援練習にも熱が入っていました。ダンスの振り付けを覚えるときには「ここはこうしたほうが見栄えがいいよ」と3年生やクラスのダンスリーダーからのアドバイスを聞きながら修正し、応援練習では「もっと声を出そう！」と声を掛けながら団結を深めていました。学年を越えて他学年の姿に刺激を受けることもあり、体育祭という大きな行事が、学校全体の活気をつくっていることを改めて感じました。

詳しくは本校ホームページ10月3日の投稿を御覧ください。

https://schit.net/nagareyama/oogurotyuu/blogs/blog_entries/view/21/5614a5c270a72520646e85e78813fb9f?frame_id=29